

“筑後川上流部の出水解析について”

九大、応用力学研究所 篠原 謹 爾
○九大 工学部土木教室 上田 年比古

雨量から流出量を求める方法として、これまでに種々の方法が発表されて来ているが、著者等は之等各種の方法を筑後川上流部の雨量と流量の資料に適用して、比較検討してみた。

資料としては昭和20年より昭和30年に至る間の女子畑発電所大山川取入口及び同所玖珠川取入口の流量記録と、小国外数ヶ所の時間雨量記録とから選んだ大山川20洪水、玖珠川10洪水を用いた。

適用した方法は次のものである。

A. 単位図法による出水解析

- 単位図の作成法として、次の4法をとった。

- 1. 与えられた雨量と流量記録に適合する様に逐次漸近的に求める法。
- 2. 佐藤氏外2名の流出函数による法。
- 3. *Clark* 及び江神氏の貯留法による法。
- 4. 石原・金丸氏の単位洪水源による法。

B. 特性曲線による出水解析

岩垣・末石氏によるもので、流出現象を非線型として近似的に解いたもの。

以上の各方法を適用して、筑後川上流部の出水解析を行い、各方法の検討を行つた結果を述べたいと考える。